

## 9 消防団概要

昭和38年、五市合併による北九州市の発足に伴い、門司消防団、小倉消防団、若松消防団、八幡消防団、戸畑消防団、洞海湾消防団の6団、89分団2,979人となりました。

昭和49年、北九州市の行政区再編成と併せてスタートした「消防団の近代化計画」により、門司消防団、小倉北消防団、小倉南消防団、若松消防団、八幡東消防団、八幡西消防団、戸畑消防団、洞海湾消防団の8団、8本部、69分団、定員2,030人の体制となり現在に至っています。

### (1) 消防団の現況

#### ア 組織等

門司消防団…1本部…11分団…7支部 八幡東消防団…1本部…7分団…2支部  
 小倉北消防団…1本部…9分団…1支部 八幡西消防団…1本部…12分団…2支部  
 小倉南消防団…1本部…14分団…13支部 戸畑消防団…1本部…5分団  
 若松消防団…1本部…7分団…5支部 洞海湾消防団…1本部…4分団

【第80表】消防団の定員・現員

(令和4年4月1日現在)

区分	消防団	分団	計	消防団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員
計	8	69	2,030 (1808)	8 (8)	16 (16)	92 (90)	83 (82)	149 (141)	336 (305)	1,346 (1166)
門司	1	11	338 (317)	1 (1)	2 (2)	14 (14)	13 (13)	24 (24)	56 (50)	228 (213)
小倉北	1	9	244 (185)	1 (1)	2 (2)	12 (10)	11 (11)	20 (16)	42 (34)	156 (111)
小倉南	1	14	452 (411)	1 (1)	2 (2)	17 (17)	16 (16)	30 (29)	74 (69)	312 (277)
若松	1	7	222 (221)	1 (1)	2 (2)	10 (10)	9 (9)	16 (16)	38 (37)	146 (146)
八幡東	1	7	204 (182)	1 (1)	2 (2)	10 (10)	9 (9)	16 (16)	35 (32)	131 (112)
八幡西	1	12	340 (297)	1 (1)	2 (2)	15 (15)	14 (14)	26 (26)	55 (52)	227 (187)
戸畑	1	5	140 (114)	1 (1)	2 (2)	8 (8)	7 (6)	12 (9)	25 (24)	85 (64)
洞海湾	1	4	90 (81)	1 (1)	2 (2)	6 (6)	4 (4)	5 (5)	11 (7)	61 (56)

(注)1 ( )内は、現員

2 定員は、北九州市消防団の組織等に関する規則第4条ただし書きの規定により、臨時に定員及び配置を変更した数

【第81表】消防団員の報酬・費用弁償

(令和4年4月1日現在)

年額報酬 (年/円)									出勤報酬 (出勤1日当り/円)		
消防団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	機関員	機関員補助者	災害	警戒訓練等	7時間45分を超えたら同額加算
82,500	69,000	50,500	45,500	37,000	37,000	36,500	20,000	10,000	8,000	5,000	

【第82表】消防団員の年齢

(令和4年4月1日現在)

区分	平均年齢	計	18歳～ 20歳	21歳～ 25歳	26歳～ 30歳	31歳～ 35歳	36歳～ 40歳	41歳～ 45歳	46歳～ 50歳	51歳～ 55歳	56歳～ 60歳	61歳以上
計	43.3	1,808	37	109	136	162	229	290	318	239	169	119
門司	43.8	317	4	10	37	30	40	48	54	36	30	28
小倉北	43.0	185	1	22	11	10	26	32	30	22	24	7
小倉南	45.0	411	1	20	16	36	53	75	78	73	36	23
若松	43.1	221	5	14	18	28	24	28	47	24	15	18
八幡東	43.6	182	12	12	17	11	14	23	30	27	16	20
八幡西	42.3	297	14	21	22	22	42	48	46	37	27	18
戸畑	42.7	114	0	8	9	11	19	17	24	13	11	2
洞海湾	42.8	81	0	2	6	14	11	19	9	7	10	3

(注)全体の平均年齢は、各消防団の平均年齢から算出

【第83表】消防団員の在職年数

(令和4年4月1日現在)

区分	平均在職年数	計	5年未満	5年～ 9年	10年～ 14年	15年～ 19年	20年～ 24年	25年～ 29年	30年以上
計	12.2	1,808	400	416	358	276	173	97	88
門司	13.3	317	54	68	74	51	30	17	23
小倉北	12.1	185	42	41	37	26	21	8	10
小倉南	11.4	411	83	110	89	73	30	14	12
若松	12.2	221	55	51	38	27	23	12	15
八幡東	11.7	182	51	38	28	23	28	7	7
八幡西	12.0	297	77	72	41	42	24	26	15
戸畑	12.4	114	19	23	32	17	14	7	2
洞海湾	12.1	81	19	13	19	17	3	6	4

(注)全体の平均在職年数は、各消防団の平均在職年数から算出

イ 施設・機材等

【第84表】消防団施設

(令和4年4月1日現在)

項目	分団本部	分団支部
施設数	65個所	30個所
敷地面積(基準)	330㎡	100㎡
建物構造(基準)	鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造
建物面積(基準)	約100㎡	約35㎡
工作物	ホース乾燥台	

【第85表】消防団機材等の配置

(令和4年4月1日現在)

区 分		門 司	小倉北	小倉南	若 松	八幡東	八幡西	戸 畑	洞海湾	計
分 団 本 部		11	9	14	7	7	12	5	4	69
分 団 支 部		7	1	13	5	2	2			30
車 両	指 揮 車	1	1	1	1	1	1	1	1	8
	ポ ン プ 車	11	8	14	7	7	12	5		64
	小型動力ポンプ積載車	7		13	5	2	2			29
	自 走 式 搬 送 車		2							2
そ の 他	消 防 艇								(8)	(8)
	携 帯 無 線 機	12	11	15	8	8	13	6		73
	無 線 受 令 機	19	9	28	13	10	15	6	1	101
ト ラ ン シ ー バ ー	217	151	298	145	127	202	85	10	1,235	
発 動 式 発 電 機	25	12	29	14	24	28	6		138	
投 光 器	26	16	17	12	19	29	6		125	
メ ガ ホ ン	21	13	37	4	11	18	6	1	111	
強 力 ラ イ ト	73	48	109	53	42	68	28	3	424	
警 戒 ロ ー プ	26	22	33	8	15	19	10		133	
担 架	32	20	46	14	21	35	10		178	
ス コ ッ プ ( 角 )	40	18	33	21	27	28	17		184	
ス コ ッ プ ( 剣 )	112	95	234	33	35	130	42		681	
つ る は し	16	16	25	13	8	27	7		112	
が ん づ め	46	25	75		8	64	20		238	
ペ ン チ	15	16	17	8	5	37	6		104	
金 槌	27	27	44	13	12	37	8		168	
掛 矢	30	19	44	13	13	40	11		170	
鎌	68	35	90	21	31	68	22		335	
鋸	33	22	25	7	3	39	10		139	
救 命 胴 衣	194	139	377	138	179	220	85	70	1,402	
可 搬 式 散 水 器	67	28	53	44	27	48			267	
鉈	19	18	28	10	5	33			113	
リ ュ ッ ク サ ッ ク	23	20	48	7		5			103	
水 筒	48	37	56	23	5	34			203	
防 塵 メ ガ ネ	216	136	158	160	131	179	28		1,008	
防 塵 マ ス ク	218	153	364	160	128	227	125		1,375	
蛍 光 チ ョ ッ キ	53	28	71	40	29	58	27		306	
合 図 灯	57	34	98	35	35	64	27		350	
40mm ホ ー ス	85	28	104	61	70	85	45		478	
50mm ホ ー ス	227	103	294	129	121	221	52		1,147	
65mm ホ ー ス	478	264	692	289	246	464	131		2,564	
万 能 斧	18	9	24	13	8	16	6		94	
ワ イ ヤ ー ロ ー プ	4	6	12	7	1	13	6		49	
チ ェ ー ン ソ ー	16	11	16	7	8	22	5		85	

(注)1 可搬式散水器・なた・リュックサック・水筒は、管内に山林を擁する分団に配置

2 消防艇の( )内は、民間艇

(2) 消防団の活動等

【第86表】消防団員の教育・訓練等実施状況

(令和3年度)

区分	項目	対象者	期間等	人数等	内容
消防学校	消防大学校消防団長科	副団長以上	5日間	1	消防団の上級幹部として必要な知識や技術を総合的に習得させ、資質の向上を図る
	県消防学校指揮幹部科 分団指揮課程	分団長 副分団長	年1回	7	分団長又は副分団長として必要な知識・技術の習得
	県消防学校指揮幹部科 現場指揮課程	部長	2日間	7	部長として必要な知識・技術の習得
	県消防学校初級幹部科	部長・班長	2日間	7	指導者として必要な知識・技術の習得
	消防操法研修	未修了の者	2日間	7	消防ポンプ操法に関する知識の習得
消防局	初任科研修	団員	年1回	中止	団員として必要な基礎知識・技術の習得
	幹部科研修	班長以上	年1回	中止	幹部として必要な知識・技術の習得
	女性消防団員研修	女性消防団員	年1回	68	防火・防災に関する各種訓練
	応急手当普及員講習	女性消防団員	3日間	4	応急手当普及員の資格取得
	署・団連携消防活動 実戦訓練	指定分団	平日夜間	中止	建物密集地での火災を想定した実戦訓練
	後期警防技術錬成会	指定分団	年1回	中止	建物火災を想定した実戦訓練
各署・各団	警防技術訓練	全消防団員	随時	全消防団員	消防団員として必要な警防技術の習得
	機関員訓練	機関員及び 機関員補助者	随時	300人程度	機関員として必要な技術の習得
	人権研修	全消防団員	年2回	全消防団員	人権研修等
	安全運転管理者研修	副団長	年1回	7	安全運転管理者講習
	他都市視察研修	分団長以上	年1回	中止	他都市の消防団運営状況視察
	年間計画に基づく訓練	全消防団員	随時	全消防団員	各消防団で計画を立て規律訓練、放水訓練等を実施
市消防協会	消防協会研修	全消防団員	年1回	85	消防協会主催による消防団員研修
	他都市視察研修	消防団長	年1回	中止	他都市の消防団情勢の視察
その他	定期健康診断	農業・漁業等 自営業者	年1回	385	消防団員の健康管理と疾病による公務災害の未然防止を図る

【第87表】消防団に対する表彰

(令和3年度)

表彰区分	内容	計
叙勲	瑞宝単光章	4人
北九州市長表彰	優良表彰(退職消防団員)	42人
福岡県知事表彰	永年勤続	31人
消防長表彰	優良表彰	11人
消防団長表彰	優良表彰	25人
福岡県消防協会長表彰	優良消防団(竿頭綬)	3分団
	優良消防団員	86人
	永年勤続50年以上	1人
	永年勤続40年以上	3人
	永年勤続35年以上	11人
	永年勤続30年以上	14人
	永年勤続25年以上	17人
	永年勤続20年以上	32人
	永年勤続15年以上	60人
	永年勤続10年以上	68人
	親子・夫婦・兄弟消防団員	8組
北九州市消防協会長表彰	優良団員	41人
消防庁長官表彰	功労章	1人
	永年勤続功労章	8人
日本消防協会長表彰	表彰旗	1団
	特別功労賞	1人
	功績章	3人
	精績章	4人
	勤続章	8人
合計	1団・3分団・8組・471人	

【第88表】消防団員の活動実績

(令和3年度)

項目	合計	災害活動	年末警戒・祭礼等警戒活動	訓練・研修・予防広報活動
延べ出動人員	21,305人	4,136人	4,351人	12,818人
消防団員1人当たりの出動回数	11.6回	2.2回	2.4回	7.0回

(注) 「消防団員1人当たりの出動回数」は、令和3年4月1日現在の現員(1,840人)を用いて算出

【第89表】消防団員の公務災害発生状況

(令和3年度)

区分	計	門司	小倉北	小倉南	若松	八幡東	八幡西	戸畑	洞海湾
計	2	0	0	1	1	0	0	0	0
災害現場	0								
警防訓練	2			1	1				
その他	0								

(3) 女性消防団員の取組み

消防団の活性化を図り、地域と密着した親しみのある消防団を目指すため、昭和63年度から5か年計画で女性消防団員128人を採用しました。また、活動業務のさらなる充実を図るため、平成12年度から増員を図り、平成17年度には定員を154人としています。

【第90表】女性消防団員の現員

(令和4年4月1日現在)

所属	計	門司	小倉北	小倉南	若松	八幡東	八幡西	戸畑
人員	140	24	16	27	16	18	22	17

【第91表】女性消防団員の活動実績

(令和3年度)

種別	計	研修	訓練演習	年末警戒 祭礼警戒	予防広報	いきいき安心訪問
回数	207回	141回	41回	10回	15回	0回 (訪問世帯数)
延べ活動人員	1479人	1,001人	382人	54人	42人	0人 (訪問団員数)

(4) 関係団体

【第92表】北九州市消防協会

(令和4年4月1日現在)

区 分	内 容
設 立	昭和39年7月1日
目 的	北九州市8団の緊密な連携のもと、消防団活動の円滑な運営を行うため、消防の知識・技術の向上と調査研究、消防諸施設の改善、福利厚生の実施等により、消防力の強化を図るとともに消防思想を普及し、もって市民の災厄を防除し公共の福祉の増進に寄与すること。
会 員	消防団員
名 誉 会 員	本会のため功労顕著な者及び学識経験者
賛 助 会 員	本会の趣旨を賛同し金品等を寄与した者
役 員	会長1人、副会長1人、常任理事8人（正副会長を含む） 共済委員16人（事務局長及び監事を含む）、監事2人、事務局長1人、代議員7人
経 費	北九州市補助金（協会事業費は全額補助金、共済事業費は会員会費及び補助金）